**『一神教の闇－アニミズムの復権』**（安田喜憲、2006年11月、ちくま新書）

2023年2月1日　小林

* 安田喜憲は、国際日本文化研究センター教授、京大院教授、その他。
* この資料を作成するにあたり、インターネット情報も参考にした。
* 一神教は砂漠での牧畜文化が生んだ超越的秩序の文化である。超越的秩序とは、現実世界を超越した唯一絶対の神がすべての頂点に立ち、その神の下で作られている秩序。
* 砂漠での牧畜は牧草を求めて移動していく。いつどこで敵に会うかもしれず、一神教は戦闘的な性格を帯びている。

　

* これに対して多神教は稲作漁労文化の宗教。アニミズム（古代の原始宗教）は基本的に多神教。多くの神々が共存する宗教。
* 同様に日本のアニミズムも稲作漁労文化から生まれた宗教。稲作漁労は他者との協力が必要なので和の文化を生んだ。稲作は土地に定着することが必要なので、その土地から逃げられない。隣人との和が必要。
* 一神教はヨーロッパ・アメリカを中心に普及した。近代に入りヨーロッパ・アメリカが世界の文明の中心になったので一神教を信じるヨーロッパ・アメリカの人間は、多神教の文化を見下すようになった。「多神教・アニミズムなんて遅れた文明の宗教だ」！
* 明治になって日本は西洋文明を積極的に取り入れたため、日本人もアニミズムは遅れた文明だという考え方に染まっていった。
* アニミズムは原始宗教とも呼ばれ、基本的に多神教。日本のアニミズムでは、自然の中に八百万の神々の存在を見る。富士山などの山々を『霊峰』とたたえ、それ自体を神とした。あるいは、巨木や巨石自体を神とした。
* なんでない草木の中にも神々が宿っていると考えた。仏教ではこれを『山川草木悉皆仏性』（ｻﾝｾﾝｿｳﾓｸｼﾂｶｲﾌﾞｯｼｮｳ）といい、自然界にあるものすべて仏としての性質を持っていると考えた。自然の中に神も仏も宿っているのである。

　　　

* 一神教においては神を頂点とする世界秩序が作られる。そこでは、神（＝絶対的な神）と人間の関係は支配・被支配の関係である。神は人間を支配し、人間は動植物（自然）を支配する。
* 一神教においては、自然は人間に支配され人間に利用されるべきもの。この考え方は近代的な自由主義・資本主義の考え方に結びついたときに、人間は公害を生み環境を破壊した。人間は『自然』を支配する支配者なのだから、人間の幸せのためには自然は破壊されてもしょうがない。
* 本来アニミズムの文化であった日本もこの一神教の考え方に毒され欧米と同様に公害を生みだし環境を破壊した。
* これはある意味では『人間中心主義』の考え方である。人間が自然の支配者であるという人間中心主義である。人間は自然と共存している存在だということを忘れた誤った「人間中心主義」である。自然中心主義＝アニミズムに戻らなければならない。
* アニミズムにおいては、人間の生命も虫けらの生命も生命という点では同じである。
* これは仏教の輪廻の考え方に表れていて、人間の前世は虫けらかも知れず、また人間は死んだ後はあの世で虫けらとなる可能性もある。これが輪廻である。
* だから、今あなたの足元でうごめく虫けらも、もしかしたらあなたの先祖の生まれ変わりかもしれないのである。人間も虫けらも、生命という点においては同じだという考え方に根差したものです。
* だから、伝統的な日本の猟師は、クマやイノシシなどの獲物は山の神からいただくものである。クマやイノシシが獲れると山の神に感謝するのである。
* これに対して、欧米のハンターはアフリカで楽しみのために狩りをする。人間は自然を支配する支配者。人間中心主義である。
* 日本のアニミズムにおいても、石ころや草木など自然のあらゆるものに生命を感じ、それを尊ぶ考え方がある。自然の中に日常的にあるものに生命を感じ、それに対して畏敬の念を感じる文化である。
* そこでは虚構の産物である唯一絶対の神（一神教）よりも、目の前にある現実世界の調和ある営みこそが最大の価値を持つと考える。
* 一神教はキリスト教やイスラム教だけではない。共産主義も一神教である。マルクス・レーニンを絶対的な支配者とあがめ、それを頂点として社会秩序が作られている。共産主義国家ソビエト連邦は全世界にこの共産主義を広めようとした。
* 大日本帝国が作り出した『大東亜共栄圏』も一神教である。歴史的に見ればまったく権力を持たない天皇を『現人神』という唯一絶対の神にして、それを頂点とする社会秩序が作られた。大日本帝国は大東亜共栄圏を中国東南アジアに広めることをスローガンに進攻した。一神教に毒されると他人の迷惑を考えずに自分の信じる一神教を他人に押し付ける。
* これに対して、アニミズムの文化では森や山に暮らす動物の生命がきちんと保たれて未来永劫続くようにと願っているのである。生きとし生けるものが共存するこの現世的秩序をあるがまま肯定する。生きとし生けるものの命が輝くこの現世こそが最高の楽園であると考える。
* そこでは人間は自然を支配する支配者ではなく、自然を一方的に利用する人間でもない。人間は『自然』の中で『自然』によって生かされている人間である。人間も自然の一部。
* 現在の環境問題解決のためには、アニミズムの考え方を復権させることが必要である。人間の幸せのみを追求したのでは（人間中心主義）、もはや自分たち自身がこの地球上で生き残れないことが見えてき。
* 旧約聖書の天地創造においては、神が「光あれ」と言ったことからこの世界が始まっている。イスラム教も同じ旧約聖書を経典としていることから、この考え方は同じです。
* 余談。イスラム教はキリスト教の影響を受けて生まれた宗教です。そしてキリスト教はユダヤ教を基に生まれた宗教です。だからエルサレムはユダヤ教・キリスト教・イスラム教の共通の聖地です。旧約聖書も共通の聖典になっています。
* 余談。イエスは敬虔なユダヤ教徒でした。イエスはキリスト教を創始していません。キリスト教を創始したのはイエスの弟子たちです。
* 一神教においては、光という一点からこの世界は作られたということです。（光は神を象徴しているのでしょう。ビッグバン？）



* これに対して、仏教はブッダが人間の苦しみをどうやったら救えるのかという現実の悩みから始まった。人間の苦しみは現実世界の苦しみである。仏教は現実に立脚した宗教である。人間の現世の苦しみを救う慈悲の文化である。
* これまでの現代文明の中で大きく欠落していたのは『命への視点』である。生きとし生けるものの命の輝きに感動し、命を生み出す海や川や山等々の『自然』に最大の価値を置くべきである。
* 一神教文化は中世ヨーロッパで悲劇を生み出した。魔女狩りである（数百万人の女性が処刑された）。なぜ魔女狩りが起こったのか。この背景にはヨーロッパを襲った寒冷化がある。
* 寒冷化のため農作物は不作になり、燃料のまきを取るために森が徹底的に破壊された。まきの値段が高騰し、畑の肥料として使われる麦わらまでが暖炉で燃やされてしまった。そうすると畑の収穫量はさらに落ちるという悪循環におちいった。
* ここにペストが大流行した。この悲惨な状況を誰かのせいにしなければならないと考え、女性という弱者、特に老婆に『魔女』というレッテルを貼って責任を転嫁したのである。
* これまでの研究では、気温の寒冷化と魔女狩りの件数には相関関係があることがわかっている。

　　

* キリスト教は男性中心の宗教である。キリスト教の神のイメージは厳格な父親的なイメージです。このことから、キリスト教の秩序においては、男性優位、男性が女性の上に立っている。これも一つの要因となって女性に魔女として責任が転嫁された。

　　◀西洋の神　◀中宮寺の半跏思惟像(弥勒菩薩)

* これに対して、中世日本では仏教的アニミズム文化が人々の考えに浸透しており、寒冷化や干ばつの結果として起こった飢饉に対して魔女狩り的なことはおこなわれなかった。これは天候が悪いのは天候をつかさどる神が機嫌を悪くしたからだと考え、神にお供え物をして神に祈るということをした。誰にも責任を転嫁しなかった。
* これは、自然の中に神が宿っていると考えるからである。だから、自然に対して祈るのである。
* 仏教を創始した釈迦も男性であるが、仏教に現れる阿弥陀如来や観音菩薩は外形的にとても女性的な面を持っている。また、その心は女性的な慈悲の心に満ちあふれている。
* アニミズムの心を持っていた日本人の精神は敗戦で空疎になってしまった。マッカーサーは、敬虔なキリスト教信者。日本をキリスト教の理想を実現の場にしたいと考えた。（国際基督教大学の設立）
* 当時の日本の知的エリートたちはその影響を受けた。当時の東京大学総長は、キリスト教によって日本を立て直すと主張した。ここから日本人の心の空白が始まった。
* もう一つ日本人の心の空白を作ったものがある。一切の宗教を無視しようとするマルクス主義である。当時のエリートたちにマルクス主義が浸透していった。このような心の空白は日本人のアニミズムの心・自然に対する畏敬の心を破壊した。
* アメリカに負けた日本人は、なぜアメリカに仕返しをしてやろうと考えないのか。それはアニミズムの心を持っているからである。やおよろずの神々を信仰するためには寛容の心を持っていなければならない。だから、昨日まで敵であったアメリカを受け入れることができた。
* これに対して、唯一の神だけを信じるキリスト教、イスラム教の信者は不寛容なことが多い。一つしか神がいないのだからこれに敵対する人の存在を認める原理を見いだすのは難しい。日本ではある神が駄目でも別の神がいる。それは確かに信仰に対していい加減な態度といえるかもしれないが、逆に言えば日本人の心の柔軟性を表していると見ることができる。
* 世界には日本と同じようにアニミズムの伝統を強く残した大国がある。それはインド。アニミズムの本質である慈悲の心はガンジーに受け継がれ、英国からの独立運動で彼が主張した非暴力はまさにアニミズムの心（生命への畏敬の念、慈悲の心）である。
* 日本人はみずからを無宗教であるとか、仏教徒ではないと言いながら、心の片隅にはアニミズムの神や仏をどこかで崇拝する心を持っている。これと対照的なのがアニミズムを完全に捨て去り、共産主義を全面的に受け入れた中国である。
* この三つのアジアの大国の未来は国民の心の空白の度合いによって左右されることになるだろう。インドはアニミズムの伝統を強く残しながら、ヒンズー教、ジャイナ教、仏教など様々な宗教を共存させている。インドは環境問題に対応する新しい文明を想像できる可能性を秘めている。

以上